授業づくり研修講座　実践レポート

　座間市立座間小学校　　　　　氏名　　髙林　朋子

第５学年

テーマ　　「作文活動を通して、論理的な文章を書こう」

実践のポイント（工夫）

1. 作文を書くポイントを伝える。

（１）「順序」「根拠」を考えて書く。

・書く材料をたくさん集めて、時間の順序や説明の順序を考えて構成する。

・どうしてそのように考えたのか、どうしてそう思ったのかの理由を明らかにする。

・誰に向かって書いているのかを明確にする。

（２）表現の仕方を考えて書く。

　　・様々な本を読んでいろいろな表現の仕方を集める。

　　・友達と作文を見合って、友達の良い表現方法を見つける。

　　・何度も読んでみて、わかりやすく書けているか、工夫できる表現はないかを考える。

（３）子どもたち同士での「対話的な学び」につなげ、書きたいという気持ちを持たせる。

　・子どもたち同士で共通できるテーマを設定することで、共感できることや友達の考えの中で新しい発見ができ、友達との関わりを深め、主体的に学ぼうとする気持ちを高める。

実践内容

|  |
| --- |
| 1. 作文を書く機会を増やし、行事や出来事ごとに作文帳に書き、自分の作文を振り返られるようにした。
2. 書いた作文は友達同士で読み合い、掲示することにより、多くの作文に触れ、友達の良いところが見つけられる環境にした。

Ｎさんの作文の変化（７月の作文）１学期の振り返り授業中には友達が楽しくしてくれて楽しい一日の毎日でした。そして時々先生にあてられたとき、ぼくはびっくりして答えられなかったときとなりの人が助けてくれました。そしてキャンプの時、何回もおこられたりしたけれど、ファイヤーで楽しくおもしろくできたので良かったです。２学期はしっかり説明などをして、しっかりした行動を取って、楽しくしていきたいです。（１０月の作文）遠足岡本太郎美術館では、絵画や彫刻などの作品で有名な人なので、最初に彫刻の作品で思ったことを書きます。最初に〈動物〉の作品についてです。二つの作品が合体したような作品で、岡本太郎は何を伝えているかわかりません。そして次に〈森の掟〉についてです。誰もが思うことは多分真ん中にいるチャックがついている竜が変だと思う人が多いと思います。その時疑問に思うのはなぜ竜が怒っているのかで、それは誰かが森の掟を守らなかったからなのか、竜を怒らせることをしたからなのでしょう。このように不思議だなと思ったり、変だなと思うことがいっぱいあった遠足でした。次に行くときは何を伝えたいのかわかるように想像力を働かせて見に行きたいと思います。Ｋさんの作文の変化（６月の作文）おかしどろぼうの妹ぼくの妹は３年生です。おかしがないと生きていけないほどおかし好きです。学校から帰ってくると勉強の時間だけど２階でこっそりおかしを食べているときもあります。ぼくがそれを見つけて親にいいつけるとすぐに毎回泣き出して「ごめんなさい」と言います。でもまたやって親におこられます。それをぼくは何でやめないのと思いながら見ています。（１０月の作文）遠足の作文ぼくは岡本太郎美術館のしおりの作品を見て、これならぼくもかけると思って実際に行ってみると大間違いでした。細かいところまでていねいにかかれていて、よく見たらただの絵ではなくとても深い意味のある絵でした。深い意味のある絵というのは不思議な部分がたくさんあって、どれも正解ではないことです。ぼくは挑戦の大切さを学びました。なぜかというと太郎さんの作品は誰もが変だと思う作品を作るからです。ゼロから始まって百になるまで何度もやり直して挑戦を繰り返したのだと思います。ぼくも大きなものを作るときには最後まであきらめずに作りたいです |

振り返り（成果と課題）

・誰に対して伝えたいのか、どうしてそう思ったのか理由付けを明確にすることにより、「楽しかった」「悲しかった」で終わっていた児童も、相手にわかりやすく感じたことや考えたことを書こうと意識が高まった。

・友達と作文を見たり見られたりする機会を増やしたことにより、言葉の使い方や表現方法に幅が広がり、作文を書くことに対して苦手意識を持つ児童が少なり、見られて恥ずかしいという気持ちがなくなってきた。

・語彙を増やす工夫をして豊かな表現ができるようにしていきたい。